

淡海

三四

和書門				
八	六	三	二	類
九	二	四	號	
一	一	四	冊	
一	二	冊		
四	冊			

庫文閣内		
五	八	和
函	六	書
一	三	
五	二	類
架	四	
冊	號	

内閣文庫	
番號	和 8632
冊數	14(2)
函號	150 91



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

元和九



明治十年購本

諺海中三

元和九年

今九年七月廿六

將軍秀忠公亮

於西之御城上秀忠公亮

事多兄秀忠公亮下

通所四之

所給録に在事多

是より

代元和九年

中



考ふるを記し又時代を記するものなり
と云ふは信じて可なり

一 九万石 房別 黒川安房守忠義

右は徳川氏に代りて存在不見なる所あり
伊波高直の伊波氏

一 一萬石 野別高直 伊波高直の長女

伊波高直の伊波氏

伊波高直の伊波氏

伊波高直の伊波氏

伊波高直の伊波氏

一 おわく上校のあり

一 一万石 徳川氏 吉平純伊守

一 拾万石 尾別氏 石川傳阿守

一 一萬石 伊波氏 伊波高直

右は徳川氏に代りて存在不見なる所あり

一 一萬石 尾別氏 岩成主税守

一 一萬石 尾別氏 尾別氏

右は徳川氏に代りて存在不見なる所あり

一 一萬石 尾別氏 尾別氏

一 一萬石 尾別氏 尾別氏

一 〇

四別形内

川原犯者

一 〇

相別形内

直原在見

一 〇

江別水

山名

一 〇

清別水

安宅河

一 二

松別水

氏家内

一 二

三別水

京

一 五

任別水

石川

一 三

丹別水

少北

一 二

九別水

福

一 二

右原

右田

一 二

右原

福

一 三

右原

田

一 二

右原

田

右原在德院村

一 〇

上別水

松

右原在正正十八年

城障

一 二

右原

右原

一 二

右原

右原

一 二

右原

右原

在左國時代の段

一 三十万二千石余

惣割折

田中経隆より大改

一 二万石

在左國時代

田中久之丞

一 二万石

在左國時代 右月在左國時代より上り

田中久之丞

但二万石の同より上りて左國時代より二万石

に備河内門より上り

一 一万石余

田中久之丞

右左國時代より上りて左國時代より上り

七千石

一 一万石

田中久之丞

在左國時代

一 一万石

別市右衛門

在左國時代

一 二万石

別市右衛門

田中久之丞

在左國時代

田中久之丞

在左國時代

一 十石

中村久之丞

在元正元年十月二十一年行年廿六
令子是乃保

一拾万石 新板修造 西田佐佐木信子

右表左佐佐木信子 信所城亡一、一、七、七、万
石之惣別は北津城也云々

一拾万石 北津城也 市多正佐丹宗純

右表左佐佐木信子 信所城亡一、一、七、七、万

一三万石 北津城也 西津右中門保

一四拾七万石 北津城也 市多正佐丹宗純

右表左佐佐木信子 信所城亡一、一、七、七、万

一五万石 丹波守也 北田重信

一六万石 与別大園也 与田重信

一五万石 所地也 与田重信

右表左佐佐木信子 信所城亡一、一、七、七、万

一五万石 与別大園也 与田重信

一五万石 与別大園也 与田重信

一五万石 与別大園也 与田重信

一五万石 与別大園也 与田重信

一五万石 与別大園也 与田重信

一 二拾四万石

赤田孫四守り利改

一 五万石

同別名無改

宮中口石修治

一 拾万石

尾車平越守志居

右之令使尾村氏

一 三万石

板橋出羽守

右同の

一 五万石

福清押込江一和

一 右同の

一 五万石

同左門守一改

右同の但此五万石も同姓名一和清守

一 四万石

片桐也守

右如や守定守子女同姓守一和清守

石より中守一和守子女同姓守一和清守

一 五万石とあり

一 七拾万石

加久守守

右之令守守子女同姓守一和清守

守子女同姓守一和清守

一 九万石

左丹治守

右之令守守子女同姓守一和清守

丹治守

一 二拾万石

奥羽合戦

浦生 奥羽合戦

好意三行

又浦生 奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

松平 奥羽合戦

右 奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

一 二拾万石

奥羽合戦

奥羽合戦

奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

奥羽合戦 奥羽合戦 奥羽合戦

白下九人任侍従因土年有十八年
春秋二十五年

一丈花年を以て一内を信格とす
一丈花の長女の男を以て一内を女子
一丈花の長女を以て一内を女子とす
一丈花の長女を以て一内を女子とす
一丈花の長女を以て一内を女子とす
一丈花の長女を以て一内を女子とす
一丈花の長女を以て一内を女子とす
一丈花の長女を以て一内を女子とす
一丈花の長女を以て一内を女子とす

の古姓より各々其の上下の毒候と
た白の二毛同の女に
そりて一丈花の長女の男を以て一内を女子
けりその秋あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子
あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子
あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子
あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子
あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子
あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子
あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子
あそび候一丈花の長女の男を以て一内を女子

一因伐十一年末秘卷一人可成一人可成一人可成

と徳目ありしと云々此より云々
りれり五々の秘傳と申し傳教のこのり
法度ありしと云々此より云々
之後のよ法やと云々
持人由彦人たつらつれと云々
あつては毒流と云々

一因代は於今付と料し其在一時毎為金貨
を行ひのひひり金貨りしと云々の証人たつ
軍ありしと云々
一とせ有河と云々と云々

一 表書と云々
の表書と云々
と云々
存しと云々の
と云々

一 二万石
と云々
と云々
と云々

一 二万石
と云々
と云々

河内

一 二万石

本多氏主税

在口...

一 二万石

田後石助

在志以方...

了子志...

一 三万石

仁登保大和曾

在志子志...

一 三万石

松平石色...

在志池田...

号安二年...

一 二万石

石在法...

一 二万石

成口之...

一 二万石

行中...

一 二万石

在志...

一 二万石

在志...

一 二万石

在志...

一 二万石

在志...

一 二万石

松尾重信

在奥州赤松所領石

一 七千石

松尾重信

在奥州赤松所領石

一 六万石

傳

池田重信

在奥州赤松所領石

一 二万石

傳

山崎重信

在奥州赤松所領石

一 五万石

傳

德永重信

在奥州赤松所領石

時宗を遺つて

上は下信

長信

一 二万石

松尾重信

在奥州赤松所領石

藤原一様

信

一 拾二万石

松尾重信

在奥州赤松所領石

一 松四万石 中村松茂より 多岐春徳に譲りて

一 松三万石 志保没利より 藤三知下松源利

一 松二万石 下使伴より 志保松信

一 松七万石 藤三松茂より 生駒松清に譲

一 松五万石 有平海より 没

一 松四万石 石川信成より 吉田三郎頼重に

一 松三万石 石川信成に

一 松二万石 松三松茂より 中多田信成に

一 松一万石 石川信成

一 松五千石 奥羽松茂より 加多松信成に

一 松三千石 松三松茂

一 松二千石 松三松茂より 中多田信成に

一 松一千石 松三松茂より 中多田信成に

一 松五百石 松三松茂より 中多田信成に

一 松三百石 松三松茂より 中多田信成に

一 松二百石 松三松茂より 中多田信成に

一 松一百石 松三松茂より 中多田信成に

一 松五十石 松三松茂より 中多田信成に

一 松二十石 松三松茂より 中多田信成に

一 松十石 松三松茂より 中多田信成に

とむねの役にして傳旨よめのみは右
とむねの半の日後成る後より酒法の上
今付はさしよめ石別を本とす所子
してはさしよめ石別は後とす所成る
信田の懸舟とて是れを本とす所は
病死也

一三万石

加友臣の補

一四万石

丹波福富の補

稲葉陸路の補

一三万石

右は元祖の補

河井の補

國井組の補

主税男の補

右は元祖の補
あはれし中は後とす所成る
信田の懸舟とて是れを本とす所は
病死也
山崎の補
信田の懸舟とて是れを本とす所は
病死也
山崎の補
信田の懸舟とて是れを本とす所は
病死也
山崎の補
信田の懸舟とて是れを本とす所は
病死也
山崎の補
信田の懸舟とて是れを本とす所は
病死也

土方石土下千餘十方石在庄下傍林
矢之所入と信付は成とら城者能信後
福山守ありか加害るとい半角は成とら
とら守ありと身石を成とら信付あり
今もいふ好自守信付あり

一在ら城者之後入裏方の中上至中以信
娘ありは信女に付る子信在り所謂信女
及娘と信女者、中信信判り、信女は信女
信女ありと信女信女信女信女信女信女
出けり信女ありと信女信女信女信女

上至ありと信女信女信女信女信女信女
けり信女信女信女信女信女信女信女
手付判り信女信女信女信女信女信女
信女信女信女信女信女信女信女信女
と信女信女信女信女信女信女信女信女
信女信女信女信女信女信女信女信女
判り信女信女信女信女信女信女信女
信女信女信女信女信女信女信女信女
信女信女信女信女信女信女信女信女
信女信女信女信女信女信女信女信女
信女信女信女信女信女信女信女信女

生害上経舟の定於時是推

可惜期君十二春 人同籍作百年樂

増た頼也係成歴 如露亦如雨電無負

これ口是永在年九月 於殿中井上主中

と文列戸井より けり信科の右主中

所中にして係判戸の上使書し信田越

い左殿中よりい 此係也是重年井越あ

之は口自書之 依向と付越死し

此係也より 越あ書 年を後白書下し

又書向とい 係死し 乃由た

自代甲解存此附 信田渡信与 越あ

一三万八千石

信田越あ

一四万八千石

上刺安

水北信信

右名信信与 年妻の水北 監物安言 如

嫁如妻妻如 子と負せ下れり 此の如

し也より 一から 同此 別別 忠誠 此

一二万八千石

松原市刀

右名松原市 此の 房家 智と 此

房家子 年 有 行 申 能 申 与 重 常 下 案

子於子之入也信是書孫有也(一)市刀
從命(一)一(一)一(一)得也

一二十萬石 別心取也 右(一)信(一)集(一)本(一)集(一)恒

右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內
右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一十萬石 別心信也 右(一)平(一)同(一)信(一)也

右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內
右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一二十萬石 丹別心取也 右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一十萬石 右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一十萬石 右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一十萬石 右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一十萬石 右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一十萬石 右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一十萬石 右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

右(一)信(一)子(一)午(一)信(一)會(一)身(一)信(一)信(一)志(一)奉(一)右(一)內

一 上方在 葉之度 年長石見也

右葉之度 同姓市千序石見也

一 二方在 右後齋殿 日根北極之宮

右葉之度 乃河邊也

一 四方在 右河邊也 皆川山城也

右葉之度 平上居也 乃河邊也 乃河邊也

一 五方在 右河邊也 松下石見也

右葉之度 永四年 之死也 子志方也 又改名 石見也 乃河邊也 乃河邊也

所記

一 上方在 右河邊也 松下石見也

右葉之度 永四年 之死也 子志方也 又改名 石見也 乃河邊也 乃河邊也

一 上方在 右河邊也 松下石見也

右葉之度 永四年 之死也 子志方也 又改名 石見也 乃河邊也 乃河邊也

右河邊也 乃河邊也 乃河邊也

人同氣也 志方也 身似也 乃河邊也

平一年 志方也 乃河邊也 乃河邊也

一七方石

中下為持世後

在寬永長五年丁酉年
國之第時子何之
西廿月了系原
車之院方不之
及在之号了后後
長情
每上之

寬永元

同二

同四

同六

同

護海才四

寛永元甲子年

一 元和十年二月海改元号寛永入皇百十代
後光明院御宇

一 寛永二己丑年

一 今年中細去忠長六段河國を少小但左由年
春ともしり

一 同年七月十二日 將軍秀忠云日光上所集防

一 今年中多上地外正純羽呂中流取

一 寛永三丙午年

一今年、右軍家秀建云、家光之友上杉重成
一何れも世子の幸し、年々、その日、中一
一大小、成石、徳信、幸し、以、年々、右、中、秋、子、母、り、て、日
一も、多、物、す、し、て、家、代、来、り、の、日、何、と、り、多、り、平
一本、恙、く、持、く、油、矣、水、高、一、七、多、の、死、を
一二月、一、二、条、所、城、の、行、事、了、り、以、付、法、師、等
一也、了、

竹慶、建、年、一、法、製、

家、光、に、お、か、り、の、

祭、壇、也、

五、多、の、代、り、を、限、り、新、下、也、

虎、在、法、源、秀、建、云、

是、竹、の、家、代、也、と、建、る、り、也、

何、れ、も、あ、る、お、君、の、行、事、と、

右、軍、家、光、云、

の、幸、す、の、物、の、大、君、と、云、也、

子、母、七、行、也、と、云、り、と、云、也、

南、法、源、院、法、源、秀、建、

家、光、に、お、か、り、の、是、竹、也、

家、光、に、お、か、り、の、是、竹、也、

法、源、院、法、源、秀、建、

年々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

本國々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

色々々々々々々々々々々々

二景 田舎に在る京康道

足行北東世に在るはるる

君の仍幸の限り志す也

在る介親王家並法に在る元師等志す也
字二首在るは九別文は時仍幸に在る
再在るを除く也

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

但利を元師に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一仍幸初に要個別に在るは在るに在る

一 弓祝 四内ニテハ古
一 白浪送る 今桐子
一 水きし 二ツ
一 糸ひん 二
一 月世全 二 万色
一 又んもの口狂き由余
一 白うの津控之妻お
一 湯桶 一ツ
一 湯子 二序 四ツ
一 水筒 二
一 束々 二ツ
一 名折 二ツ 白浪
一 又んもの口狂き由余
一 白浪 十ツ 白浪
一 白うの津控之妻お
一 湯桶 一ツ
一 湯子 二序
一 水筒 二
一 束々 二ツ
一 名折 二ツ 白浪

笠

右を置けり 家光ニ侍せり

一 所大行 一 櫻 一 所 一 所

一 朋係 一 行ぬ毛
一 万葉集 二 舟 定も毛
一 一ツ香 女行 一 返 一 蓋 五ツ
一 所 伍右 一 所 伍右 一 所 伍右
一 今よ 二 今よ
一 子男 一 子男
一 所 伍右 一 所 伍右
一 名折 一 名折
一 湯桶 一 湯桶
一 湯子 一 湯子
一 水筒 一 水筒
一 束々 一 束々
一 名折 一 名折

笠

右を置けり 所 秀忠ニ侍せり

一 所 伍右 一 所 伍右 一 所 伍右
一 今よ 二 今よ
一 湯桶 一 湯桶
一 湯子 一 湯子
一 水筒 一 水筒
一 束々 一 束々
一 名折 一 名折

右を置けり 所 伍右 一 所 伍右

一白子 子殺

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

在室中 言は方は 後家光云

一白子 中

一白子 中

和室の存続
の事
の事

一白子 中

一白子 中

一白子 中

在室中 言は方は 後家光云

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

在室中 言は方は 後家光云

一白子 中

一白子 中

在室中 言は方は 後家光云

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

一白子 中

和室の存続
の事
の事

一 志あり 中 一 志あり

一 志あり 中 介 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 一 志あり 二 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり 二 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり 二 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり 二 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり 二 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり 二 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり 二 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

一 志あり 中 有 一 志あり 二 志あり

一 志あり 女院 志あり 志あり

在皇女二宮上院 秀忠云

一侍少 一御金

在皇女二宮上院 延正天皇御

一侍少 一御金 二御杖

在皇女二宮上院 若正天皇御

一白浪 二御杖 一御杖 二御杖

在皇女二宮上院

一白浪 二御杖 一御杖 二御杖

在皇女二宮上院 一御杖 二御杖

一白浪 一御杖 一御杖 二御杖

在皇女二宮上院 三御杖 初山院御

侍少御杖 七御杖 八御杖 九御杖

法皇御杖

一白浪 二御杖 一御杖 二御杖

在皇女二宮上院 八御杖 九御杖

在皇女二宮上院 八御杖 九御杖

在皇女二宮上院 八御杖 九御杖

在皇女二宮上院 八御杖 九御杖

一白浪 二御杖 一御杖 二御杖

在皇女二宮上院 八御杖 九御杖

中納言友一二位或中納言侍従中納言
名家既述云云此中主人也

一 戸波 二 口波 中納言

有之則在太初殿 九条太初殿下
也

中納言

一 浪 口波 中納言

仁和寺殿 持万院殿 照子院殿
権井殿 行万院殿 大芝寺殿
妙法院殿 一 寺院殿 智恩院殿

一 隨心院殿 二 寺院殿 云々

一 浪 中波 中納言

初修寺殿 嘉南院殿 安福院殿

云々

一 浪 中波 中納言

無人 三人 無人 廿五人

一 浪 中波 中納言

林寺中 女中 方々

一 浪 中波 中納言

上廊 云々 大初 云々
大初 云々 大初 云々

一 浪平杖 十徳ニマ

中内侍

中内侍

はちりき人

はちりき

りき

一 浪平杖 十徳ニマ

圓房

りき

ちりき

ちりき

一 浪平杖 十徳ニマ

りき

ちりき

一 浪平杖 十徳ニマ

中務

あはみの

あはみの

一 浪平杖 十徳ニマ

あはみの

あはみの

ちりき

あはみの

一 浪平杖 十徳ニマ

あはみの

あはみの

あはみの

あはみの

一 浪平杖 十徳ニマ

あはみの

あはみの

一限百字杖

あまの女と女ど九人ひりあ
四人くき下

一限百字杖の 越女中くき下

一限百字杖の 中倉くき下女中

一少袖十

梅太初々々の
そつりけ後
梅太初々々の

せんくき下

一限百字杖 少袖六

あまの女 右まの体後

一限百字杖 少袖六

中後くき下 左まの体後

一限百字杖 少袖六 大まの体後

一限百字杖 少袖六 中まの体後

一少袖四 右後くき下

一少袖四 左後くき下

長門くき下 右まの体後

信濃くき下 左まの体後

日向くき下 信濃くき下

あつちの

あつちの

あつちの

一 限 中 校

あつちの

一 限 中 校 十 神 十

あつちの

一 限 中 校 十 神 十

あつちの

あつちの

あつちの

一 限 中 校 十 神 十

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

一 限 中 校

あつちの

一 限 中 校

あつちの

一 限 中 校 十 神 十

あつちの

あつちの

以上

二月十八日

不考云

以美内一特 亦二川方 亦 德法名

左位 羅進 入 考

尾道中 初之 義 主 之 任 之 初 之

池 伊 中 初 之 初 之 入 之 任 之 初 之

禮 河 中 初 之 忠 長 之 任 之 初 之

水 下 等 和 初 之 入 之 任 之 初 之

松 平 化 市 之 利 長 之 任 之 初 之

松 平 薩 摩 之 家 之 任 之 初 之

松 平 陸 奥 之 政 之 任 之 初 之

松 平 伊 豆 之 忠 長 之 任 之 初 之

松 平 宣 武 之 博 忠 之 任 之 初 之

松 平 上 信 守 之 任 之 初 之

忠 長 之 忠 政 之 任 之 初 之

松 平 在 門 之 秀 初 之 任 之 初 之

仰 川 初 之 任 之 初 之

系 初 之 任 之 初 之

上 秋 淨 心 之 初 之 任 之 初 之

松 平 初 太 平 之 初 之 任 之 初 之

井 伊 初 之 任 之 初 之

伊 豆 之 初 之 任 之 初 之

在事之次第

一月十九日 勅使 河北中納言志保 上海宗

左大臣兼兼左大臣 補任左大臣兼左大臣

兼左大臣兼左大臣 補任左大臣兼左大臣

一今年江戶上代 東照權現 止仕 止仕 止仕

所 南老坊 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

取与 圓頓院 止仕

元禄四年 一 行

一 今年 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

元禄六年 一 行

一 今年 七月 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕 止仕

不仕今為年午、在公遠有律法、亦一有
改、此言古律、公及、亦成、以之、律、以、
今、之、律、入、旨、由、上、何、事、也、先、日、以、三、上、
以、身、之、公、所、取、之、上、信、之、事、遠、流、也、

景永二年七月廿九日

玉室之流

玉室、多、是、年、一、在、竹、松、之、人、日、時、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

律、法、亦、有、之、公、之、律、也、一、律、法、亦、有、之、

一 秋油に... 曲事... 流罪在... 完承... 一 左に...

一 左に... 流... 月... 元是... 巴陵... 洞庭湖... 今昔... 十分影... 月亦... 羽天... 歎... 苦... 圖

一 八月... 元是... 巴陵... 洞庭湖... 今昔... 十分影... 月亦... 羽天... 歎... 苦... 圖

一 八月... 元是... 巴陵... 洞庭湖... 今昔... 十分影... 月亦... 羽天... 歎... 苦... 圖

一 八月... 元是... 巴陵... 洞庭湖... 今昔... 十分影... 月亦... 羽天... 歎... 苦... 圖

一 八月... 元是... 巴陵... 洞庭湖... 今昔... 十分影... 月亦... 羽天... 歎... 苦... 圖

信更みく

私をよと人を信の川に

我名よと志のよと

は昔の松をありけむ

よと母よと母よと母よと

は昔我松よと母の

松をありけむ

のよとれ昔母よと母

よと母の松をありけむ

母よと母よと母よと

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

よと母の松をありけむ

かり代考ると云ふもいふも

一今年九月十日汝陽車山はあちを

あけぬ火坑夏秋 如何と云ふ門ありて

歴知不思低と書くと云ふりけり

その時のありと云ふは

初よりいひ教事とりて

吾代焼云いふと云ふ

一今年十月五日天子位と

皇元永七座

一今年九月十日女帝即位於

十代帝と云ふと云ふ

[Faint, illegible text on the left page]

[Vertical handwritten text in the gutter]



